○ 本校の概要

1 本校の学校規模は、生徒数433名、通常学級数12、特別支援教室数1、教員数29名である。(5月27日現在)

2 本校の教育目標は ①心身ともに健康な生徒 ②自ら学び、解決する生徒 ③自他を大切にし、鍛え合い、高め合える生徒 である。
3 本校の教育目標は ①・小身ともに健康な生徒 ②自ら学び、解決する生徒 ③自他を大切にし、鍛え合い、高め合える生徒 である。
4 本校の教育の特色は、①・キャリア教育の推進 ②学力の向上 ③生徒の自主活動の推進 ④開かれた学校づくり ⑤9年間を見通した小中一貫教育の推進 ⑥食育の推進 ⑦オリンピック・パラリンピック教育の推進 ⑧特別支援教育の充実である。
4 本校の特済の重点は、①・「確かな学力」の向上及び定着と「分かる授業」の推進。②キャリア教育の視点から、生徒が主体的に授業に取り組むためのアクティブ・ラーニングの推進と、思考カ・判断力・表現力・創造力の向上。 ③各教科における、意図的・計画的な話し合いや発表会等を通した、論理的な話し方の育成と、読書活動の推進による言語活動の充実である。

「項目	目標	系者評価の結果の概要と改善策 <sub>取組内容</sub>	取組指標	目標に対する成果	指標	成果 評価 これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄コメント
プラン1 未来社会を創造的に生	コシ情力きれ会なす力にからいたの身す。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外 国の方々とのコミュニケーション能力の育 成等を図っている。	4:「おおむれできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	保護者者に対象ない。 おに対象を一づきは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	4: 85% 以上	保護者および生徒対象に実施した学校教育活動点検アンケートにおいて、プラン1に関する質問項目1~4における 肯定的な評価の割合は、保護者966 %(+48)、生徒97%(+18)と高く、当該要素において、求められる水準を上回っている。教員の肯定的な評価の割合は92%(+29.3)となり、昨年度評価の低かった質問項目2「倫理的、科学 的な思考力の育成を目指した授業を行った」の評価の割合も96%(+53.8)に向上した。背景には10代機を活用した授業の実践が有効に活用されたことにより、コロナ禍の影響による「主体的・対話的で深い学び」の実践が見現化できるようになったところに起因するものと考える。そのような中、おおた教育ビジョンにおける「本質・教用収定」における「中学校第1学年理科の期特に参考を超どき」とはたの前へ達成率」」は88.6% であり、区(65.0%)及び全国(65.5%)の平均正答率を上回っており、第2学年、第3学年についても区及び全国の平均正答率を上回っている。人権教育の推進については、「人権教育全体計画」に基づき、各教科、特別活動、特別の中、感染予防に配慮しながら体育の授業及び、部活動等を通じ実践することにより、東京都の体力調査の平均を維持するか、やや上回る結果を男女ともに示している。	・コミュニケーション能力、情報活能力、ともに生きる力など、これらの社会の変化に対応する生徒育成が成果指標から何うことがきる。それにより生徒の自信にも
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動 や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。 4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活		2: 40%以上 1: 40% 未満		さる。てれにような。 がるものと考える。 ・英語検定3級以上を取得している 示し、区の指標50%を越えている。 ・理科の期待正答率は68.6%を 示し、区の平均65.0%を超えている。 ・理科の期待正答率は68.6%を 高し、区の平均65.0%を包入した。 ・に7数質においては、生徒力人にだした。 ・に7数質においては、生徒力人に活した要素が展開され。9月1日は、日本に投業が展開され。9月1日は、日本に大侵業が展開され。9月1日は、日本でも授業を受けられる体制をは、日本でも受験を受けられる体制をは、日本の一般を変した。また、正した、フロナ禍の中、歴史では、日本の一般を発している。・スポーツに親しむからについては、日本が6本質の優美及び、スポーツに親しむからについては、なが6本質の優美及とより、するが6本質の優美及で、日本の一般を発き時に配活京範である。 はから本質の特別である。 ・スポーツに親しむからにいるにない。 なが6本質の受験を選び、対するが4本質の表現を表現し、自分の考えとなり、また。 ことができた。またまり、するが6本質の受験を選び、対するが4本質の表現を表現する。
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、I CT機器を活用した授業を実施する。	1:60%未満であった。				
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を 目指し、人権教育資料等を活用した授業を 実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。				
き る 子 供		体カテストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」 運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。				
の 育 成		キャリア教育を通して、生徒が主体的に社 会に参画するために必要な力を、身に付け 授業を実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。				
	児童・生徒一 人ひとりの学 ぶ意欲を高 め、確かな学 カを定着させ ます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一 人ひとりの学習のつまずきや学習方法に ついて、指導する。	4. 列東となる主子版(主教員/で行うた。 3:80%以上で行った。 1:60%よ声で行った。 1:60%未満であった。 4:学期に2~3回知らせた。	保護者表に表しています。 保護者表に言いています。 は、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一	85%以上 3:60%以上 2:40%以上 1:40% 未満	肯定的な評価の割合は、保護者83.7(+7.1)%、生徒88.5(+2.5)%と当該要素について、求められる水準を概ね満 たしている。教員の肯定的な評価の割合は93.1(+33.1)%となり、ICTの有効活用による主体的で分かりやすい授業 の工夫と推進が成果として認められる。おおた教育ビジョンが示す、成果指練「数学の期待正答率を超えた生徒の割 合(中学3年)」は、65.7%を示し、大田区の平均正答率61.7%、全国の平均正答率61.2%を上回る結果を示している。1、2年についても大田区及び全国の平均正答率を上回る結果が見られる。今後も、生徒一人一人の学ぶ意欲を 高め、確かな学力の定着を図り、正答率の向上に向けた取り組みを行っていく。	
プラン2		算数・数学到達度をステップ学習チェック シートで児童・生徒、保護者に知らせる。	**・子が、こべら回がらだ。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。 4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。				を示し、大田区の平均正答率 61.7%、全国の平均正答率61.2% を上回る結果を示している。1、2 についても大田区及び全国の平
学 力 の		学習指導講師等による算数・数学・英語の 補習を実施する。	3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。				
向上		授業改善推進プランを、授業に生かす。	3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。				
		分かりやすい授業を行うために、学習指導 を工夫改善している。	3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 4:全教員が行った。				
	子とや感感る自ををど希たはす との自らと他尊育、望豊ぐ。 との自然と他尊育、望豊ぐ。 をも生すす来満なみまである。 の感に用め、心なのを は、なと他尊育、望りない。	小中一貫による教育の視点に立った生活 指導の充実により、社会のルールや学校 のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。 4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。	保護を教育では、 はた検文を 者に実動にシ項おは 者に実動にシ項おの でした検で でした検で でした検で でした検で でした。 でした。 でした。 でした。 でいた	3:60%以上 2:40%以上 1:40%6末末滿	保護者および生徒対象に実施した学校教育活動点検アンケートにおいて、プラン3に関する質問項目10~13における肯定的な評価の割合は、保護者82%(-10.9)、生徒90.6%(+2.6)と、保護者と生徒の評価に差異が生じた。教員の肯定的な評価の割合は、保護者82%(-10.9)、生徒90.6%(+2.6)と、保護者と生徒の評価に差異が生じた。教員の肯定的な評価の割合は昨年度の54.2%から97.0%へ上昇している。生徒と教員の肯定割合が上昇した理由は、道徳におけるICTの有効活用と、昨年度コロナ禍により実施できなかった小中一貫教育の実施が要因にある。保護者に関しては、学校における清掃活動のボイントが22.1%数値が下がったことが要因となるが、コロナ感染対策による感染の予防を意識した清掃活動のボイントが22.1%数値が下がったことが要因となるが、コロナ感染対策による感染の予防を意識した清掃活動のスタイルの変化にあると思われる。そのような中、生徒の自己肯定医は昨年度の83.3%から78.5%へと4.8%減少している。コロナ禍における学校、家庭等の生活環境の変化が要因として考えられ、プラス思考が生まれない状況を改善していく必要がある様に感じられる。今後も「学校生活調査」と「ハイパー〇川の発果を非に、例に応じた物道を対域にかいる	
プラン		道徳教育推進教師を講師とした研修や、 国、都及び区の資料を活用した授業等を 行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。 4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。				・コロナ禍の中、自分には良いと ろがあると答えた生徒の割合は
豊		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。				○.6%を示し、生徒1人1人の正 態や自己青戸窓。自己有用感な の高まりが見られることは素晴ら い。・保護者アンケート項目の低下は 学校の状況を知ることができない 保護者の意識が数値に表れてい と考える。アンケート項目の変更 び、ICTを活用した学校の への状況提供について工夫して く必要がある。
かな心の		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめ の未然防止、早期発見等のための取組を 実施する。	3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に				
育 成		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・ 生徒に関するケース会議等を実施する。	対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事業に対してあまり宝蔵を実施しなかっ た 1:必要な事業に対してほとんど会議を実施せず、組 織的な対応をしなかった。				
		道徳の授業や体験的活動、行事を通して、 自己肯定感を高め、豊かな情操と主体性 のある生徒を育てる。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。				
プラン4	人し成慣よ向涯健図向まれむやのる上に康る上は康る上は東る上に康る上は東る上の事業力がたた進識がいたが、生ない・連続のといる。 せい こうしゅう はい こうしゅう はい しょう はい	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を 通して、児童・生徒や保護者に対し、望まし い生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	保護者および生生徒学 対象に実動点点ない でなかで、このでは、1000円	60% 以上	保護者および生徒を対象に実施した学校教育活動点検アンケートにおいて、プラン4に関する質問項目14~16における肯定的な評価の割合は、保護者80.6%(+1.7)、生徒においては88.2%((-10.9)となっており、日常の運動量の減少と、それに伴い身体を動かったとの楽しさを示す肯定の割合が減少している。教員の肯定的な評価の割合は56.2%から96.0%へと上昇している。生徒にとっては、コロナ禍における運動の機の減少が要因となり、保養者と教員はコロナ禍の中でもできる運動機会の提供と実践が上昇の要因となり、このような数値が現れたものと思われる。コロナ禍を背景に、「スポーツに親しむ心の育成り、「運動質の定義による体力の向上」など、「生涯にわたって健康増進を図る意識の向上」については、運動する者(子ども)と運動の機会を提供する者(指導者)との間で意識の違いが生じているもの捉えている。そのような中、おおた教育ビジョンが示す成果指標の「体力合計点」については、令和3年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の結果、全学年男女ともに、体力合計点の結果が東京都平均とほぼ等しいか高くなっている。特に3年女子の数値は、東京都の平均を3ポイント近く上回る結果を得ることができた。	・コロナ禍における運動の機 の提供が物理的に減少してい ことから、評価指標の数値の
体力		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。				<ul><li>は、令和3年度東京都児童・ 徒体力・運動能力、生活・運動</li></ul>
向上と		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。				女ともに、体力合計点が東京 平均とほぼ等しいか高くなっいる。特に3年女子の数値は 東京都の平均を3ポイント近・
健康の増		保健体育科の授業、体育的行事、部活動 等を通して健康増進の意識を高め、基本 的生活習慣を確立する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。				回る結果を得ることができ、全 国的に低い水準を示す女子の 実態から考えると高く評価でき る。
プラ	児童・生徒がに 学をを 学校を と の は を を を を り に り り り り り り り り り り り り り り	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむれできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	保護者を持ち、 は、	4: 85%以上 3: 60%以上 2: 40%以上 1: 40%格末满	保護者および生徒対象に実施した学校教育活動点検アンケートにおいて、プラン5に関する質問項目17~22における肯定的な評価の割合は、保護者964(+4.5)%、生徒94.8%(+4.1)と当該要素について、求められる水準を上回っている。教員の肯定的な評価の割合は98.0%(+28.2)となっており、これまでのコロナ対応における成果が上昇の要因と考える。おおた教育ビジョンの成果指標は教員の指導カ「子ども達にとって分かりやすい授業をしていた」となび「子ども達一人一人の活動が充実していた」に下とても当てはまる」と回答した割合となっている。本校のアンケート結果は72.0%(+2.6)となっているが、「学期の結果のみの分析となり、2学期はコロナ対策のため、リモートによる学校公開となったためアンケートは行っていない。今後も、生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境の整備を効果的に進めている必要がある。	・コロナ禍のため、地域教育連
ン 5 魅		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、 主任教論が助言・支援を行う校内研修等を 実施しOJTを充実させる。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。				るは、 は、 は、 は、 は、 に、 に、 できなかった。学校公開に できなかった。学校公開に できなかった。学校公開に できなかった。学校公開に できたが参観できた は、 は、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に
力ある教		各種研究発表会等の研究・研修の成果 を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。				ではないため参考値として見
育環境づ		校内委員会等を確実に実施し、学校にお ける特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。				はなる。 を持った。 教員の指導力向上と 良質な教育環境作りが効果的 に機能しているものの判断す る。
ر ا		適正な評価基準を設定するとともに、説明 責任、結果責任に耐えうる評価方法を全教 員が工夫実践する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。				
プランの	学・地役確に開育目をするという。家担といれた、別では、れました、大きののですをいて、は、大きののでは、これでは、大きののでは、大きののでは、大きのののでは、大きのののでは、大きののでは、大きののでは、大きののでは、大きのでは、まないないないがは、まないは、ないないないは、ないないは、ないないは、ないないは、ないないは、ないないは、ないないは、ないないはないは、ないはないはないは、ないはないはないは、ないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはな	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期回以上更新した。 1:更新しなかった。	保護者および生生学ア 対象をでは、 保象をできるでは、 大変をできるできるできる。 保護者は、 大変をできるでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	3: 60%以上 2: 40%以上 1: 40% 未満	「めいさつ」についくは昨年に与さ称さ正有か見られ、子伎も継続して指導を行つていさだい。	
っ て学 と校		地域教育連絡協議会において、児童・生徒 の変容等の具体的な資料を作成して、評 価に必要な学校の情報を適切に提供し、 適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。 4:学期に2~3回行った。				・学校と地域が教育の目的を 有する等、連携協力し、地域
に家庭・ める地		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4: 宇期に2~3回行つた。 3: 学期1回以上行った 2: 年1回以上行った。 1: 実施しなかった。 4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。				特色を生かした取り組みを進め、 ることについては、コロナ禍のが め停滞しているが、今後はWith コロナの視点で新たな取り組み について学校と地域で検討を進 かる心悪がある。
		生徒の人間形成のために、学校・家庭・地域か協働して、生徒が主体的にボランティア活動を行う環境を整える。	4:1おおむねできた」と生教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。				める必要がある。
		自主的に校内・部活動の場面であいさつす る生徒の育成を図る。	3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。				
				]		当該アンケート回答者数412名	

〇記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

〇学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である O4点について、評価した人数を記載する。